

教育目標 ○深く考えて行動する子(めあてをもち、自ら学ぶ子) ○思いやりのある子(心優しく、助け合う子) ○健康で明るい子(命の大切さがわかる、たくましい子)

めざす学校像 ○子供の学ぶ意欲と喜びのあふれる学校 ○いじめのない、子供が安心して通える学校 ○子供と地域社会を結ぶ学校

めざす教師像 ○学びと体力向上の喜びを与える教師 ○現状把握を的確に行い子供の心に寄り添う教師 ○けじめある指導を適切に行う教師 ○誠意をもって外部対応できる教師

努力指標は4段階でご記入ください。

努力指標・成果指標の数値は4段階評定です。

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	分析コメント	改善策
知	確かな学力の育成	基礎基本の定着	習熟度指導・個別指導の充実、ICT機器の積極的活用、学習習熟度を高めるための家庭学習の計画的な提示	3		3		低学年では一斉指導の中で学習支援やドリル、ノート指導を充実させ習熟を図っている。そのほかの学習の場面でも実態に応じて工夫して基礎基本が定着するよう展開している。タブレット型パソコンの活用についてはギガタイム(毎月1回)を設定して、ICT機器に触れている。中高学年では総合の時間などに積極的に活用している。	基礎基本の学力は今後も繰り返し指導していき、定着を図っていく必要がある。タブレット型パソコンの活用方法については、計画的に各教科の学習場面でどのように活用していくのかを学年で共通理解して取り組むことが大切である。また、活用していく中で書く学習が減らないような工夫も必要である。
		読解力の向上に基づく言語能力の育成	計画的な読書活動、教員による読み聞かせや一人読書と本紹介、言語能力育成を視点にした日常的な授業改善	3		3		図書の内での司書による読み聞かせやでんでん太鼓のお話会は貴重な経験となっている。読書旬間の効果も高い。言語能力の向上のため、日記や作文を書く機会を設定、指導している。学級や学年によってはスピーチや名文暗唱などを行っている。	朝読書や業間の一人読書は定着してきているが、タブレット型パソコンの活用と読書のバランスを考えていく必要を感じている。
		体験的な学習の充実	コミュニティ・スクールとして、地域の人材やボランティア、教材を活用した学習(毎学期)、体験的学習を取り入れた授業実践	4		4		保護者や地域の方々による学習ボランティアや校外学習の引率など、各学年ごとに計画に沿って体験学習を実施しているところである。	年度初めに年間計画を立てる。今後も計画的に実施していくために見直しをもって連絡や打ち合わせをしていく必要がある。
徳	豊かな人間性の確立	けじめある学校生活	計画的な授業の実施、学習規律の確立、あいさつの励行、「九小の約束」の徹底	3		3		挨拶は概ね元気よくできている。引き続き、自分から気持ちの良い挨拶ができるよう指導したい。代表委員会が行っている挨拶運動も効果がある。九小のきまりや学習規律については、児童の実態に応じて随時、様々な時間で担任や生活指導を中心に指導しているところである。また、校長講話でも触れるようにしている。	特に九小のきまりについては、守られていなかったり、理解が不十分だったりする児童の様子を教員間で共有し、きまりを守ることを提示する等、具体的な対策をたてて継続的に指導していく。
		思いやりと感謝の心の育成	児童理解のための教員研修、考え、議論する道徳授業の充実、縦割り班活動、「九小タイム」の充実	3		3		教員研修として、教育相談全体会を年に数回実施している。道徳の時間には、ただ文章を追ってだけでなく、役割演技や話し合いの時間を設定し、自分の考えを深める授業の工夫を行っている。また、縦割り班活動や「九小タイム」などで異年齢活動を取り入れ、思いやりと感謝の心の育成を行っている。	今後も道徳の授業の充実を図り、各学級、各学年の良い取組などに関して共有していくとさらに思いやりと感謝の心の育成につながる。
		音楽・芸術活動の充実	音楽集会の実施、学級における音楽活動、図工作品の展示、日本の伝統文化を活かした活動						
体	健康でたくましい心身の育成	食の教育の充実	体験的な食育の実践、栄養士・調理員との交流、「もぐもぐタイム」	4		3		食育の実践として計画的に食材を使った授業や校外学習を実施しているところである。毎日の給食時には栄養士が各教室を回り児童の様子を見ている。様々な体験を通して食べることへの意欲や、給食を作って下さっている調理員の方々や食材への感謝の気持ちも高まっている。	個人差はあるが、量をあまり食べない児童への声掛けや残菜を減らすための給食委員会の取組などが効果的である。引き続き「もぐもぐタイム」の時間を確保や「びっくりデー」などを設定し、完食することや栄養について考えていくことを目指す。
		体力増進に向けた活動の充実	運動量の確保を目指す体育学習、「九小ギネス」～長縄跳び、学級での休み時間の取組、外遊びの推進	3		3		体育の学習の中でも運動量の確保に努めているところである。中休みは割り当てられた学年の全員が外遊びをすることになっている。一緒に外で遊び、児童と一緒に体を動かす教員の姿も見られる。	割り当て日に一部の児童が中休みに室内にいたことがあったので、継続的に声掛けをしていくこと、学級指導も併せてしていくことが大切である。引き続き、体力増進に向けて各クラスで工夫して計画的に実施していくことも必要である。
		児童の危機意識の向上	地域との連携を図る避難訓練、登下校訓練、定期的安全指導・朝会・安全点検、危機回避能力の育成	3		3		避難訓練は、回数を重ねるごとに緊張感をもって取り組んでいる。今後も訓練を重ねたい。登下校の歩行では低学年を中心にまだ指導を要する段階である。安全指導朝会では映像も効果的に使いながら計画的に実施しているところである。	登下校時や放課後の交通ルールを守っていない児童に対する対策を生活指導部を中心に考え、教職員全体で児童に伝えていく。